

むきぼんだ花だよ！ 7月

2016. 7. 2



◎ オカトラノオ(虎の尾)サクランボ科

名前の由来:花穂先端が虎の尾のように垂れ下るのに似ている。海藻の仲間の「ウミトラノオ」と区別するために「オカトラノオ」と呼ばれます。○ 低い山地の日当たりのよい草地に見られる多年草で、冬は地上部は枯れます。茎は直立し高さ50～100cm、先端に長さ15cm位の花穂付け、真っ白な小花を多数咲かせます。花は下方から開き、途中で横向きに曲がり同じ方向を向いているのが特徴です。地下に細長い地下茎が多くあり、これを伸ばして増えていきます。そのため群生するのが普通です。

★ 撮影日:2016,7,2, ★ 撮影場所:洞ノ原 北谷際



◎ ヤブガラシ(藪枯し) 別名(ピンボウカズラ)ブドウ科の多年草

蔓性の植物で、地下に伸びた根茎で繁殖し、茎は、成長が旺盛で、細い巻きひげは、四方八方に伸びたちまち全体を覆い、藪でも枯らしてしまうことから「ヤブガラシ」の名前が付いた。地方名には、ヤブガラシ、ヤブタオシ、ジャングル、などとも呼ばれます。○ 薬用植物で、夏から秋に、全草を天日で乾燥させます。これが生薬の、鳥激毒(ウレンボ)です。腫物、虫刺されには、生の葉をすり潰して汁を付けます。○ 若芽を茹でて、水に晒しアクを抜き、お浸し、和え物、油いため、汁の実、煮びたしなどにして食べます。

★ 撮影日:2016,7,2 ★ 撮影場所:洞ノ原入口左側草地



イヌザンショウ



ヨウシュヤマゴボウ



ウラジロノキ

◎ コブシの果実(辛夷(しんい)・拳) モクレン科

別名:コブシハジカミ・ヤマアララギ・田打ち桜・キタコブシ
名前の由来は、果実が集果で、握り拳のようにデコボコしているから。○ 早春に他の木々に先駆けて白い花を梢いっぱい咲かせます。モクレン科の木でコブシによく似た「タムシバ」があります。遠くから見ると見分けが付きませんが、見分け方は花が咲いたとき、コブシは花のすぐ下に小さな葉を1枚付けますが「タムシバ」にはありません。一方「タムシバ」は、葉を噛むと甘味があり、「噛む柴」の別名がありそれが訛ったものだそうです。また、枝を折って嗅いでみると、スーッとキシリトールのような芳しい香りがあり、そのために、「ニオイコブシ」の別名もあるそうです。「辛夷(しんい)」は、中国で木蓮(モクレン)のことをいい、漢方で鼻炎に効く生薬の一つで、コブシの蕾(つぼみ)を乾燥した物のことを言います。・春の季語・

★ 撮影日:2016,7,2, ★ 撮影場所:洞ノ原入口左側



◎ ネムノキ(合歓木)マメ科の落高木 別名ネム・ネブ

名前の由来:夜葉を閉じる(就眠運動)に由来する。漢字名の「合歓木」は、中国ではネムノキが夫婦円満の象徴とされていることから付けられたもの。花は枝先に集まって夏に咲く。淡紅色の雄蕊が長く美しい。荒地に最初に侵入するバイオニア的樹木です。花を生薬として用いる。花言葉 歓喜・夏の季語

★ 撮影日:2016,7(花は終わり近く、風強い)★ 撮影場所:洞ノ原 北谷際



◎ エゴノネオアシ(フシ)エゴノキの虫こぶ エゴノキ科

別名:チヤノキ、ロクロギ、有毒植物
名前の由来:実の味がエグイため。○ 白い清楚な、鈴状の花が枝いっぱい咲く、材の用途は、床柱・コケシ・杖・庭木・和笠のろくろ 花言葉:壮大 写真は面白いエゴノネオアシ(フシ)○ アブラムシによって形成される黄緑色の虫こぶ、猫の足を連想させる。梢のあちこちに、猫足がぶら下がる。

★ 撮影日:2016,7,2 ★ 撮影場所:洞ノ原入口



ノグルミ

◎ヘビイチゴ(蛇莓)バラ科の多年草

○語源は実が食用にならず蛇が食べる莓、ヘビがいそうな所に生育する莓、イチゴを食べにくる小動物をヘビが狙うことからなど諸説があります。毒があるという俗説があつて、「トクイチゴ」とも呼ばれますが、無毒。○全草や果実を乾燥させたものを漢方薬として利用されます。生薬名は蛇莓(じゃも)と云い、解熱、通経に用いられます。ジャムに加工してもよい。

★ 撮影日:2016,7,2 ★ 撮影場所:洞ノ原入口草場



◎シヤシヤンボ(小小坊)ツツジ科別名シヤセンボ

名前の由来 面白い名前ですがササノボすなわち、(小小ん坊)に由来し、小さな実が並んで実る様子を「小小ん坊」と表現して名付けられた。【岡山県の沿岸部ではサカキのことをシヤシヤキと呼ぶ。しかし、乾燥のため本物のサカキは少なく、似た植物で代用した。そこでシヤシヤンボはシヤシヤキ(サカキ)の意味でなからうか。末尾の「ボ」は、坊主や坊っちゃんをイメージさせる、と云われます。○常緑の小高木、枝は初め細かい毛があるがやがて無毛となり白くなる。葉は楕円形、やや厚い革質で表にはつやがある、葉脈がやや窪むので表面に網目状の溝があるように見える。新葉は赤く美しい、やや乾燥地に多く観られる。5月から7月に白色の壺状の可愛い花が多数咲く。花序は総状、果実は小さい球形の液果で、黒紫色に熟し、食べられる。これは同属のブルーベリー類と同じく、アントシアニンを多く含む。晩秋になると、黒紫色に熟す実は「サシブ」と呼ばれる。直径5~6mm程度で、甘酸っぱくて美味しい。ブルーベリー同様、表面には白い粉(ブルーン、果粉)を帯びる。秋が待ち遠しいなあ〜

★ 撮影日:2016,7,2 ★ 撮影場所:洞ノ原東側丘陵先端下る右林際2本



◎ ハルジオン(春紫苑)。キク科・多年草

北アメリカ原産で、帰化植物。ある地域では「貧乏草」と呼ばれ「折ったり、摘んだりすると貧乏になる。」と云われます。花言葉は、「追想の愛」。名前の由来は、「春に咲く、キク科のシオン(紫苑)」の意味。ハルジオンとヒメジオンは、花がよく似ていて混同しやすいので解り難いが、茎を折ってみるとよい。ハルジオンの茎には真ん中に空洞があるが、ヒメジオンの茎は空洞がない。また、ハルジオンの葉は茎を抱くように付く。○要注意外来生物に、また日本生態学会では、日本の侵略的外来種ワースト100に選定しています。

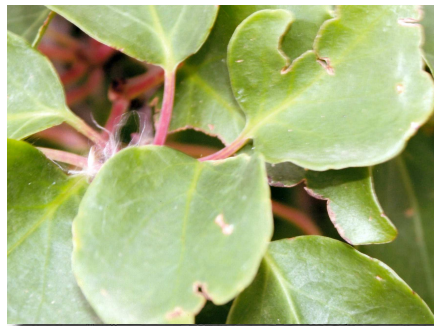
★ 撮影日:2016,7,2 ★ 撮影場所:イベント広場通路西側草地



◎ムクノキ(棕の木)落葉の高木

名前の由来:よくわかっていないようです。古事記の時代から「むく」とよばれていたようです。○古くから身近な存在で、平安時代の「倭名類聚抄」に「和名 無久」とし現れているようです。昔は一里塚などに植えられ、木陰で涼をとることから「涼」の字があてられたとも言われます。○材は強靱で建材や、天秤棒に使われたり、葉を、「漆器の木地」、「象牙」や「べつこう」などの研磨に使用しました。現在のサンドペーパーです。秋、黒く熟した果実は甘みがあり美味しく食べれます。

★ 撮影日2016,7,2 ★ 撮影場所 洞ノ原入口左側草地



◎ マツブサ(松房/松蔭) シキミ目マツブサ科

別名ウシブドウ・フタカズラ 雌雄異株【写真は、♂株】
名前の由来は、樹皮がマツに似ていること果実がブドウの房のように垂れている様子から松房と付けられた。またウシブドウ(牛葡萄)は、熟した果実が黒くなり見た目がブドウに似ているから。特徴は、蔓性の植物、左巻きで他の木に巻き付きながら長く伸びる。蔓を折ると松脂の様な臭いがする。樹皮はコルク質で弾力があり、軟らかく若いものは縄の代用にも使われたと言われます。むきばんだ史跡公園内で「♀株」を見つけた植物のひとつです。○果実は、薬用「生薬の(松蔭(しょうとう))」や食用にされ松脂の様な臭いがあるが、酸味あつて食べられ、とくに果実酒は好まれます。○長野県伊那地方では、「マツブサ」を栽培して果実から「ごむし(五味子ワイン)」が作られたり、特産品として「ワイン」の原料にしているそうです。

★ 撮影日:2016,7,2 ★ 撮影場所:洞ノ原通路左谷際



◎ ヤダケ(矢竹)タケ科別名ヘラダケ・シノベ・ヤジノシノメ

○常緑多年生タケ亜科の植物の一種で、竹と付いているが、成長しても皮が稈を包んでいるためササに分類される。稈の長さは2~5mで節はほとんど膨らまず、節間は長い。枝は各節から一本出る。竹の皮は長く稈が見えるのはわずかな名前の由来は、昔は矢軸の材料として利用されたため。○用途として、矢、筆の軸、釣竿、装飾用窓枠や庭園用などに用いられる。

★ 撮影日:2016,7,2 ★ 撮影場所:洞ノ原入口左側

*会員から質問がありました。「竹には男と女があるのですか?」

☆~子どもと一緒に七夕の笹に飾りつけをしていたら、近くの家のオバちゃんから「竹には男と女がある。七夕用だったら男の方を使ったのが良い。」と云いられました。本当でしょうか。~

*竹類は元々「雌雄同株」で、植物的に♂♀があるわけではありません。それが、中国の俗説で「最下の枝が1本のは雄竹、2本のは雌竹で、雌竹からは節がよく出る・・・」が日本に伝わり、もともと日本に古来から生えていて、竹材として利用価値の高かった「マダケ(真竹)」を、男性的な印象から「男竹」とよび、河原などに生えている女性的な種類を「メダケ(女竹)」と呼ぶようになったようです。また孟宗のタケノコは、黒っぽいのが雄竹(クロコ)と赤っぽいのが雌竹(シロコ)と区別して呼ばれ、シロコのほうが美味しいと言われているそうです。いろいろな説があつて本当のことかどうか分かりませんが、? 因みに「メダケ(女竹)」と呼ばれる竹(笹)は、実際に標準名としてありますが「オダケ(男竹・雄竹)」はありません。



★むきばんだを歩く会★

●指導: 鷲見寛幸先生 (鳥取県自然観察指導員)

●毎月第1土曜日午前9時30分~正午

●入会金 2000円 毎回資料代 300円 いつでも、どなたでも入会可能です

●問い合わせ: むきばんだ応援団「むきばんだをあるく会」